

Interview



市有害鳥獣対策実施隊
渡邊 優 副隊長

**クマやイノシシなどを
目撃した場合は連絡を**
▶産業経済部農林振興課
☎ 0220(34)2709
▶各総合支所
☎ 18～23ページ上部参照
▶警察署 ☎ 110番

一人一人の「心がけ」が被害対策の力に

昭和40年代頃の狩猟は、キジなどの鳥類を対象とした趣味の側面が強いものでした。その後、植林などによって山の環境が変化し、平成10年頃からシカが、その後を追うようにイノシシが増え、現在は狩猟の目的が趣味から有害鳥獣の捕獲へと大きく変わりました。

野生動物が頻繁に人里へ下りてくるようになった大きな原因は、「餌」と「隠れ家」です。屋外に放置された生ごみや、収穫されずに落ちたままになっているカキやクリの実などが餌になり、管理されていない空き家などがすみかになります。また、除草されていない草むらは、身を隠しながら人里へ近づくルートになり、近年は中山間地域だけでなく、市街地の家庭菜園

が一晩で荒らされる被害も増えています。

また、クマだけでなく、イノシシやシカも人に危害を加える恐れがあり大変危険です。過去にはイノシシに手首をかまれるなどの負傷事例もあるので、安易に近づかないように気を付けてください。

私たち、鳥獣被害対策実施隊は、これからも地域のために活動が続けていきますが、地域の皆さん一人一人の日頃の心がけが、鳥獣被害を減らす大きな力になります。もし、被害に遭った場合は、遠慮なく市役所などへご相談ください。安全・安心な生活と豊かな農林業を守り、未来へつないでいくため、私たちと共に地域全体で鳥獣被害対策に取り組んでいきましょう。

「安全」と「農林業」を未来へ 私たちに求められることは

近年、市内でも急増しているクマの目撃。クマを私たちの生活圏内に寄せ付けないためにはどうすればよいのでしょうか。そして、鳥獣被害を予防するために、私たちが日頃からできることを、長年本市で鳥獣被害対策に尽力してきた富士原則義さんと渡邊優さんに聞きました。



市有害鳥獣対策実施隊
富士原 則義 隊長

「クマは本当に鼻がいいんです。特に、果物のような甘い匂いには、敏感に反応します」と富士原さんは指摘します。

昨年の夏、果物の香りに誘われたクマが、数日間にわたって市内に出没しました。クマは本来、警戒心が強い動物ですが、それ以上に強いのが食欲。一度でも「ここにはおいしい餌がある」と覚えると、何度でも現れるようになります。

以前のクマは人間を恐れて山に隠れていましたが、中山間地域の人口減少や耕作放棄地の増加などにより、徐々に人里へ。山の餌が少なくなってきたことなどもあり、私たちの生活圏に出没するようになりまし。これからの季節は冬眠前の餌を求める時期なので、市街地への出没が増える可能性があります。身を守るためには、事前にクマの習性を調べて知識を身に付けておくことが重要です。

鳥獣被害が発生する主な原因

私たちが日頃の生活の中で気を付けることが被害の予防につながります。

①エサがある

食べ物があると何度も出没するようになります



- 放置された野菜や果実
- 未収穫のカキやクリなど
- 置きっぱなしのペットのエサ
- 生ごみの放置 など

②隠れ場所がある

隠れられる場所があると被害の拡大につながります



- 草刈りされていない場所
- 遊休農地
- 手入れされていない竹林・やぶ
- 人目に付かない場所 など

③侵入しやすい

空き家や床下の隙間などがすみかや侵入経路になります



- 管理されていない空き家
- 床下や屋根の隙間
- 放置された果樹園
- 防護柵の未設置や破損 など

問い合わせ窓口

鳥獣被害や農地整備

鳥獣による被害の通報、地域で中山間地域の農地を整備したい場合の支援。
☎ 産業経済部農林振興課(農村環境係)
☎ 0220(34)2709

農地の適切な管理

農地を売買・貸借したい場合の相談や手続きなど。
☎ 農業委員会事務局(農地管理係)
☎ 0220(34)2317

市公式LINEで通報

鳥獣の目撃や被害を市公式LINEからも通報できます。クマやイノシシなどの目撃情報も配信しています。



クマを目撃した場合は絶対に近づくず、すぐに市役所か警察署に連絡してください」と注意を呼びかけます。

山に入る際も、これまで以上に注意が求められます。クマやイノシシなどの野生動物は、朝と夕方に活動が活発になるため、この時間帯の入山は極力避ける必要があります。

そして、何より重要だと語るのは、1人で山に入らないことです。「1人で山菜採りなどに行き、クマと鉢合わせしてしまつて襲われたら、助けを呼ぶことができません。山では熊鈴などを鳴らし、『ここに人間がいるぞ』とクマに知らせることが安全対策として有効とされていますが、それで絶対に安全というわけではありません。足跡やフン、爪痕などの痕跡を見つけたらすぐに引き返すなど、常に周囲に気を配るようにしてください」と警戒を促します。

テレビなどでも度々注意喚起されていますが、万が一クマと遭遇してしまった際、どのような行動をとるべきなのでしょう。

「一番やってはいけないのは『背中を見せて走つて逃げる』ことです。クマは逃げるものを追いかける習性があります。実際に私も山でクマと目が合ったことがありますが、目をそらさずに見ていたら、クマの方から離れていきました」と実際の体験を振り返ります。

また、近年護身用として持ち歩く人が増えているのがクマスプレー。人間にも強い刺激を与える可能性があるので、いざというときに冷静に風上から使用できるように、事前に使用方法と注意事項を確認しておくことが大切です。



昨年8月に中田町内に出没したツキノワグマ。地域住民は数日にわたって不安な生活を送った

「私たちもバトロールや捕獲に努めていますが、それだけでは被害を防ぎきれません。クマを人里に引き寄せないためには、地域ぐるみでの対策が必要です。まずは、生ごみの処理など、身近な生活環境から見直してみてください」と訴え、地域の安全を願います。